

九州看護福祉大学の概要

各学科の特色・目的

〔看護学科の特色・目的〕

本学科の教育目的は、地域の生活者に根ざした看護保健活動ができる練達者を育成することにあります。なぜなら、高齢社会は優れた人格、学問的知見および信頼できる技能を有した専門職による全人的援助を望んでいるからです。その要請に対応できるように教育目標を次のように定めています。

1. 科学的根拠に基づく看護
2. 対象とする人の価値観や生活に根ざした支援
3. 人間社会と生活環境への参画
4. 人間の一生を通じた看護
5. 対象者の生活の質の向上

この教育課程は8つの分野から編成しています。

1. 看護専門者の資質として求められる豊かな人間性と自立を育む「人間の科学」の分野
2. 科学的根拠に基づく看護ができるように基礎科学を系統的に学ぶ「生体の科学」の分野
3. 社会の変化に即した看護学を学ぶ「臨床看護学」の分野
4. 医療・保健・福祉の3つの領域を統合して学び、地域において質の高い在宅看護ができる「保健看護学」の分野
5. 看護関連研究を行い、論理的に思考する訓練をする「研究」の分野
6. 看護理論・知識・技術を統合して看護実践の方法を確実なものにする「看護統合」の分野
7. 看護を基礎においた教員免許取得に関する科目を選択できる「教育職員免許」の分野
8. 性と生殖にかかわる指導・相談を行い、出産の援助ができる「助産学」の分野

とりわけ、看護分野での体験学習、臨地実習は約1年間、生活者とその家族に根ざした看護を学ぶ場で、それらは、

1. 大学病院、市民病院、町立病院、個人専門病院、地域・保健医療センター
2. 保健所・市町村役場・各地域の福祉施設

などです。

こうして、本学科は生活者の生活の質の向上と健康と幸せを考え、看護専門職にふさわしい見識と能力をもって、人々を援助することのできる人材に育つよう配慮しています。

助産師課程の目的

命の過程すべてに接する看護領域のなかで、特に誕生に深く関わるのが助産師です。安心して出産や育児をするための指導・介助・相談などだけでなく、母子のケアや女性の性の健康にも関わります。本課程では幅広い妊産婦支援に対応する、保健・福祉を統合した総合教育を徹底しています。

〔社会福祉学科の特色・目的〕

「くらし(日常生活)」の中で様々な“困りごと”を抱えた人々が、社会の一員として安心して暮らすことができるように支援していくこと、それが福祉専門職あるいは福祉に携わる実践者の役割です。そのためには、そうした福祉課題を心と体あるいは社会的・経済的に幅広い視野で捉え、解決・調整する力が必要です。

社会福祉学科では、そのために人間をトータルに理解できるコミュニケーション力を育てることを基本としています。

また、高齢者、障がい者、ニートやいじめなど、社会福祉が扱わなければならない問題の領域は大きく広がるとともに、多様化、複雑化しており、社会福祉の専門職、実践者には今まで以上に高い能力が求められます。

これからの社会福祉をリードする人材を育てるために、社会福祉を実践できる基礎力の獲得を目指します。そして、学生が自分の希望と特長を活かせる目標を定め、たうえで、「履修科目群」方式で深く学び、実践力と応用力を養えるカリキュラムを準備しています。

共通科目、共通専門科目

「医療」「保健」「福祉」をトータルに学び、総合的に福祉問題に取り組めるよう、医療や保健関連の科目も受講できるカリキュラムを編成しています。

基礎専門科目

基礎専門科目には社会福祉の専門的学習の基礎となる重要な科目が準備されています。選択して履修することになりますが、「基礎演習」は大学生活の初年次において履修すべき必須の科目になります。

3つの履修科目群

基礎専門科目(必修と選択)を履修し、さらに、自分の希望と特長を活かすために3つの「科目群」の一つを重点的に履修します。これにより、福祉の実践を可能にする知識、情報、技術を学び、修得するとともに、国家試験受験資格や教職免許の取得も可能になります。ただし、将来の実践における“強み”を考えて、他の「科目群」も部分的に履修することになります。3つの「履修科目群」は以下のようになっています。

第1群「くらし」を「社会のしくみ」から考える科目群～地域福祉実践科目群～

私たちの「くらし」は地域や社会のしくみの中に存在します。この科目群では「くらし」を支えることを、地域や社会のしくみとの関連で考える視点や方法を学びます。個人や家族、地域住民の「くらし」に焦点をあて、社会福祉に関連する法制度や福祉サービス・社会資源を活用して利用者の支援を行うことを学習する科目群です。そうした学習を通して、私たちの「くらし」をより良くするヒントや実践の手がかりを得ることができ、それらを地域や社会に還元することが可能になります。

また、地域社会ではさまざまな事情から、必要な支援を自ら求めることを出来にくい人々があります。それを代弁するのがソーシャルワークの原点です。

具体的には、高齢者や障がい者の方へのサポートの問題を専門的知識・技術で解決を図る能力を身につけます。さらに、人々が就労するための支援や地域での「暮らし」を守る生活保障などの制度について学び、日々変化する社会情勢に対応して「暮らし」を支える方法を学習します。

第2群「暮らし」を「こころとからだ」から考える科目群～福祉臨床科目群～

「こころとからだ」は「暮らし」にとってかけがえのない存在です。心理学や保健学、医学、看護学の基礎を学び、医療分野や臨床心理領域において社会福祉の専門性を活かし、社会福祉の専門職として多職種と連携できる力を養います。身体疾患、精神疾患に関する知識を深め、身体的・精神的な援助を必要とする人々や、その家族の「暮らし」を支援するための知識や技術を習得します。社会福祉の実践では、さまざまな苦しみや悩みを抱えた人に対して、その苦悩に寄り添い、共に考えるパートナーにもなります。それらの人々との関係づくりを通して、人々が生きていく居場所をつくり出すことが重要です。そのために、安全なケアが提供できるよう、また自身の安全も守れるよう、しっかりした知識と技術、資源利用について学習します。

第3群「暮らし」への支援を広く考える科目群～福祉文化科目群～

この科目群では、「暮らし」を支える技術や方法論について広く考え、また、福祉的視点を拡大することを考えます。高齢者や障がいのある人々が「暮らし」の中で困難を感じる作業や仕事も新しい道具の開発や工学的方法を利用すれば、ずっと負担が軽くなります。それらを積極的に利用すれば、介護の仕事にもさまざまな可能性が広がることでしょう。いろいろなアイデアが求められる中で、福祉の視点からの発想が活かされることも期待できます。

ノーマライゼーションの理解を深め、高齢者や障がいのある方だけではなく、すべての人々が生活する「暮らし」を考える中で、豊かな人間性を養い、人権を尊重し、さまざまな場面で活躍できる能力を養って、国際的視野をもった活動や支援についても学べます。

社会福祉の知識・技術を活かして、幅広い分野を目指す場合に中心となる科目群であり、社会福祉専門職としての活躍はもちろん、一般企業や NGO、NPO など、その活躍を海外に求めてゆくことも期待されます。

実践強化科目

社会福祉の実践力をさらに磨き、自らの得意分野をしっかりつくるための科目群です。国際的視点、統計調査、情報工学分野、心理学領域、学校ソーシャルワークなどに関連する科目が準備されています。

社会福祉士、精神保健福祉士の目的

社会福祉士は、ソーシャルワークを行う国家資格の専門職です。「共通科目」「共通専門科目」「基礎専門科目」「3つの履修科目群」の中から、必修科目、選択科目を適切に履修し、単位を取得することにより、卒業時に国家試験の受験資格が取得できます。

精神保健福祉士は、精神保健領域でソーシャルワークを行う国家資格の専門職です。「共通科目」「共通専門科目」「基礎専門科目」「3つの履修科目群」の中から、必修科目、選択科目を適切に履修し、単位を取得することにより、卒業時に国家試験の受験資格が取得できます。

介護福祉士課程の目的

介護福祉士は、高齢者や障がいを抱えている方々を介護というかたちで直接的に援助する国家資格の専門職です。日常生活が自力だけで困難になり、他の人に支援を求めざるを得なくなっても、人としての尊厳を失わせることなく、その人らしい生活を送れるように支援しなければなりません。そのために、介護福祉士は、家事援助や身体介護だけでなく、症状観察に基づく家族への介護指導などを通じて、本人の自立生活支援等を行います。

介護福祉士の国家試験受験資格を取得するためには、入学当初から、介護福祉士課程に在籍することが必要になります。

カリキュラムは「第3群」の科目を中心に必要な科目を履修してゆくこととなります。社会福祉の制度や政策も学び、実践を重ねることにより、将来的にはケアマネージャーの役割を果たすことも可能になります。

教員免許の取得

「共通科目」「共通専門科目」「基礎専門科目」「3つの履修科目群」の必修科目、選択科目履修に加えて、教職科目を履修すると、高等学校教諭1種免許（福祉）もしくは養護教諭1種免許を取得することができます。

複数資格の同時取得を目指すことは履修科目数が増加し負担も大きくなるため、通常の卒業年限内で取得を目指す資格数は2つ迄として指導を行っています。

〔リハビリテーション学科の特色・目的〕

保健・医療・福祉分野の進歩は著しく、それを取りまく社会環境も大きな変化を遂げており、社会から求められる人材も、より専門的で高度な知識、技術とともに広い視野と良識ある教養が求められるとともに、チーム医療を担う一員として総合的かつ横断的な知識、判断力が求められています。また、保健・医療・福祉の現場においては、知識、技術面のみならず、対応能力に優れた人材が求められています。

本学では、高齢社会における看護と福祉が互いに融合し、その実を發揮すべき新たな視点に立ち、高度医療に適応し、かつ地域の保健・医療・福祉に貢献しうる理学療法士について次の4つの教育理念のもとに教育を展開することとしています。

4つの理念とは、生きて活動する「生活者」の視点 生活者を取り巻く「生活環境」の視点 「自立」の目標達成のための保健・医療・福祉の視点 実践理解としての「援助」の視点です。

以下に掲げる人間性・社会性豊かで、高度な専門性とチーム医療に貢献する協調性を有する人材を養成するための全人教育を行います。

1．リハビリテーション医療に貢献できる理学療法士

- ・ コメディカルスタッフとしての責務を遂行できる理学療法士
- ・ チーム医療の一員として連携できる理学療法士
- ・ 保健・医療・福祉の理念を兼ね備えた理学療法士
- ・ リスクマネジメントができる理学療法士
- ・ 身体機能及び精神機能・心理社会面(身体障害・老年期障害・発達障害・精神障害・生活機能低下)に対応できる理学療法士

2．社会（地域）生活に貢献できる理学療法士

- ・ 対象者の生活・暮らしを診ることができる理学療法士
- ・ 対象者の生活・暮らし作りの支援ができる理学療法士
- ・ 対象者が持つ能力を最大限に引き出すことができる理学療法士

3．人間性豊かな理学療法士

- ・ 障害をもった方の尊厳を大切にできる理学療法士
- ・ 障害をもった方の心を見ることができる理学療法士
- ・ 傾聴・受容・共感そして感動することができる理学療法士

〔鍼灸スポーツ学科の特色・目的〕

本学科の特色は、“生活の中で病を捉え、生活を通じて病を克服し、さらには病にならないような健康な生活をつくりだす全人的援助”を目指す建学の理念を、まさに具体化する教育です。これからの統合医療を目指し、予防医療の観点から、他職種間と連携したチーム支援ができる人材、そして鍼灸師としての仕事を通し、“地域で暮らす生活者”の健康を支えるため、“人”を看る姿勢を育みたいと考えます。

本学科は九州では初めてとなる鍼灸師といった予防医療に係る専門職業人を養成する4年制の学科です。医療の対象者“人”を理解することを基本に、身体のメカニズムや運動機能を知るスポーツ健康科学や運動学を取り入れ、心身の健康回復を図る鍼灸治療の科学的な理論と実践を学ぶとともに、保健・医療・福祉に関する専門的で高度な知識・技術を身につけます。伝統の東洋医学にも精通する医学の基礎から実践までの力はもちろん、予防医療に関する優れた対応能力を養うとともに、広い視野と良識ある教養を持つ人間性も培います。

スポーツ教育コースの目的

はり師・きゅう師の国家試験受験資格に加え、運動学、体育実技、教育実習などを学び、高等学校教諭1種免許（保健体育）を得ることを目指します。

コミュニティスポーツコースの目的

はり師・きゅう師の国家試験受験資格に加え、安全で効果的な運動について学び、健康運動指導士の受験資格を得ることを目指します。

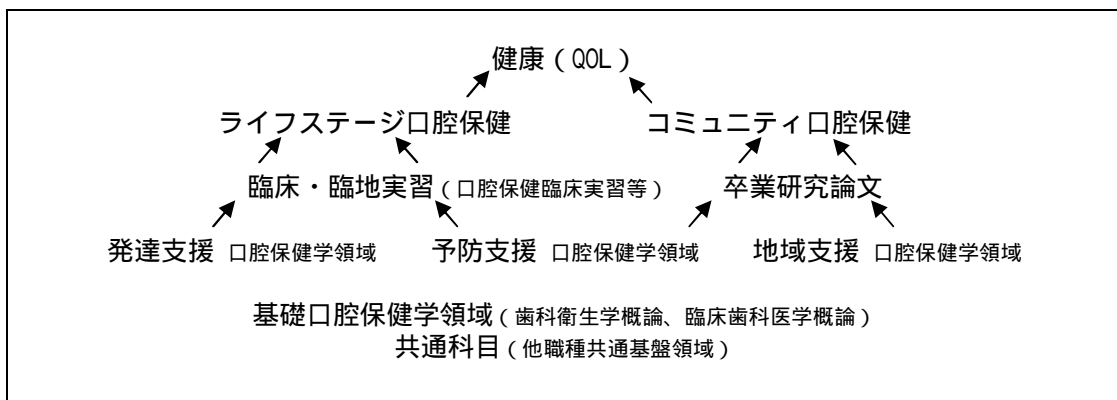
トレーニング科学コースの目的

はり師・きゅう師の国家試験受験資格に加え、スポーツ選手のコンディション、傷害予防を学び、アスレチックトレーナー（日本体育協会）の受験資格を得ることを目指します。

〔口腔保健学科の特色・目的〕

人間の成長発達段階であるライフステージや生活の場である地域社会におけるコミュニティ（職場、学校、地域など）において、保健・医療・福祉に蓄積された学際的知識と技術を、豊かな人間性と共に発揮できる能力を持った口腔保健の専門職養成は本学科の主要な人材育成方針です。これまでに、口腔保健学が培ってきた理論と技術は、ヒューマンケア領域全般にわたって待望されており、他専門職との知識の共有と円滑な共働など幅広い役割が歯科衛生士には求められています。その一方で、医療が対象としてきた患者という立場の人々だけでなく、各ライフステージや様々なコミュニティにおいて個々人が求める健康やQOL（Quality of Life：生活の質）は多様化し複雑化しています。人それぞれの生き方や個々人の健康についての“価値”を適切に捉える感受性（人を感じる力）と、それらを受け入れ「支援」していく寛容で真摯な態度は、論理的かつ柔軟な思考力とともに口腔保健学を担う者にとって不可欠です。

このような素養を持つ口腔保健専門職の育成は、下図のような学問領域体系によって教育課程が構成されています。まず、本学がこれまでに蓄積してきた保健・医療・福祉という関連学問領域における豊富な知見を背景とする共通科目であるヒューマンケアのコア領域（他職種共通基盤領域）疾病理解の基礎となる領域（基礎口腔保健学領域）を口腔保健学理解のための基盤とします。その上で、発達支援（発達歯科学など）予防支援（口腔疾患予防学など）地域支援（地域口腔保健学など）の3科目領域を専門教育研究の柱として位置づけています。口腔保健学が取り扱う諸問題と解決方法を提示するこれらの領域により、人々の健康を「支援」するための理念とスキルを磨くと共に、豊かな感受性、人間性を育みながら専門職としての基礎的能力を身につけます。最終段階となる臨床・臨地実習では、実際の現場において口腔保健学の具体的適用法を習得しながら高い実践力と応用能力を身に付けます。さらに、卒業研究を通してこれまでの過程で抱いた問題意識を具体化し、指導教員とのディスカッションを通じて探求し科学的思考能力を養います。これら一連の口腔保健学の包括的理解は、人間のライフステージやコミュニティにおける様々な口腔保健活動を推し進める力となり、医療現場だけでなく、教育（養護教諭、歯科衛生士養成施設教員）保健行政、健康関連企業などにおいて幅広い活躍が期待されることとなります。人々の健康や生活の質（QOL）の向上に口腔保健という視座から「支援」できる高い適応能力が、これからの口腔保健の専門職に求められる能力だと考えます。



大学院教育の目指すもの

本学は、地域の強い支援を受け、平成10年4月、全国でも数少ない公設民営方式により開学した大学です。このことから、「地域とともに成長する大学」を建学の基本理念の一つとして掲げ、保健、医療、福祉の連携、統合を目指した教育・研究を推進しており、本学に対する地域社会の期待は大きなものとなっています。このような期待と要請に応え、更なる飛躍を期すべく、平成15年4月に大学院を設置することとし、看護福祉学研究科（看護学専攻）を開設しました。その後、平成17年4月には新たに精神保健学専攻を開設し、現在に至っています。

1．本学の基本理念

- (1) 地域とともに成長する大学
- (2) 生涯にわたって学べる大学
- (3) 近隣諸国と学ぶ大学

2．大学院の理念

- (1) 教育、研究を通じて社会に貢献する。
- (2) 保健、医療、福祉の現場で能力を発揮する専門職の養成を目指す。
- (3) 科学技術の変化や社会的需要に応えられるよう、現代的課題に沿った教育、研究を志向する。

3．看護福祉学研究科の理念

「保健、医療、福祉を幅広く学ぶ」という独自の教育実績と研究成果を基に、看護福祉及び精神保健のより高度な学術の理論及び応用を教授研究し、専攻分野における研究や高度の専門性を要する職業に必要な能力を有する人材を養成する。

4．専攻の理念

(1) 看護学専攻の目的

科学的根拠に基づく看護を目指し、看護学分野について幅広く高度で総合的・専門的な教育研究を行い、臨床、管理、教育あるいは研究において、優れたリーダーシップを発揮し得る能力を備えた人材を養成する。

(2) 精神保健学専攻の目的

現代社会における人や社会集団のライフステージやライフサイクル上の精神保健上の問題を主題に、基盤研究や学際的・開発的な研究を行い、精神保健課題に的確に対応できる人材を養成する。